

日本リーグ初代チャンピオン

祝優勝



エース大串力投 10回1人で投げ抜く

11月4日、5日に行われた順位決定節の予選リーグでは2勝1敗で大和電機、静甲、MORRの3チームが並んだが、得失点差で大和電機が1位、静甲が2位となり、11月6日の決勝戦は大和電機VS静甲に決まった。大和電機にとって静甲は今年何度も対戦してきた相手だが、一宮オーブンは悪夢の大敗を喫した。更に7月に行われた全日本事業団選手権大会では決勝戦で対戦したが、0対9で完敗した。大和電機は静甲の壁に何度も跳ね返されてきたが、この舞台で静甲と戦う事はシーズン当初から想定してきた。前日も0対2で苦汁を味わっただけにこの日に期する思いは相当なものがあっただろう。

壮絶な戦い

決勝戦は予想通りエース同士の素晴らしい投手戦となった。序盤は静甲ペースで進み、いくつか点を取られてもおかしくない展開だったが、エース大串が要所を締めて静甲に得点を許さなかった。試合は両チームとも得点が入らず、0・0のまま7回を終了し、延長タイブレークに突入した。8回表、大和電機の攻撃は静甲の守備の乱れで1点を先制

なおもチャンスが続いたが得点が入らず1点どまりとなった。その裏、静甲も1点を返し、同点にした。9回は両チームとも無得点で10回に突入すると、大和電機は1死2・3塁のチャンスで打撃の何かを掴んだ古賀がセンター前ヒット放ち2点を追加した。この大事な場面でも掴んだ何かをようやく発揮してくれた。ありがとう古賀。10回裏の静甲の攻撃、1点を返され、2死1・2塁のピンチを招き、静甲の6番打者に痛烈なライト前ヒットを打たれたが、立川がホームに好返球、2塁走者も同点に追いつきたいと言う思いが走り3塁を回りかけたが、まさかの転倒、3塁・本塁に挟み、堀がタッチアウトし、ゲームセットとなった。壮絶な戦いを制し、新生日本リーグ初代チャンピオンに登りつめ、初優勝を飾った。昨年、レギュラー陣7名の引退で一気に若返り、これまで試合経験が少ない中で少しづつ経験を積みながら成長を重ねてきた19名の選手たち。今年も目標であった最初で最後の「初代チャンピオン」の座を本当に掴むとは大したものである。今年一年は色々な事があったが、目標を見失うことなく歩んだ結果が優勝に繋がった。本当におめでとう。